

研修名	保育士研修D 「まなび」(研修発表)
	平成29年1月13日(金) 10:00~12:30
発表①	「地域の子育て家庭への支援の充実にむけて」 海印寺保育園 今村 和正 氏
発表②	「保育の社会化にむけて ~地域の保育園としての取り組み~」 岡田保育園 北川 三和子 氏
指導助言	桜花学園大学 小嶋 玲子 氏

1. 講演要旨

1) 「地域の子育て家庭への支援の充実にむけて」 海印寺保育園 今村 和正 氏

○子育て支援拠点事業「さんさんの会」(未就園児対象)を通して地域とのつながりを行ってきた。

《事業内容》

- ・地域の方、参加されているお母さん、元保護者が講師となり
『しめ縄作り』・『リース作り』・『リンパ体操』・手づくりケーキで『カフェ』
- ・園を知っていただくために
『給食試食会&栄養士による相談会』・運動会やバス遠足・節分などの園の行事への参加・市の保健師・栄養士による子育て相談会(市との連携を図り 年8回)

○未就園児の母親を対象にアンケートを取る

《アンケート内容》

- ・夫は育児に参加しているか・育児に関して夫にしてほしいことは何か
- ・育児のことで相談できる相手はいるか、また一番相談にのってほしい相手は など

《結果から考察されること》

- ・母親が子どもと一緒に過ごす時間が長いため、子育てにしんどさを感じることも多い
- ・母親との関係が密になり、子どもの情緒は安定するが半面、なかなか父親に懐きにくいのではないかと

《アンケートを受けて》

父親に焦点をあて『お父さんとあそぼう』を開催。

第一回〈親子ふれあい遊び・製作遊び〉・第二回〈運動遊び〉・第三回〈大掃除&おもちゃつき(母親も参加)〉

○未就園児の両親にアンケートを取る

《結果から考察されること》

- ・父親と母親との子育て観にギャップがある。
- ・相談相手の傾向として同年代に相談することが多いことで子育て感に偏りが出る、解決策が見いだせない
- ・悩みを聞いてもらおう、また相談できる相手が周りにいないのではないかと。

○以上ことから

広く地域の方に海印寺保育園に行けばいろいろな相談ができる場所や存在になっていきたい。また自然の中で様々なあそびを子育て中の若いお父さんが経験することで遊ぶことが楽しいと感じ、子どもに遊ぶ楽しさを伝えてもらいたいと願っている。

2) 「保育の社会化にむけて ～地域の保育園としての取り組み～」

岡田保育園 北川 三和子 氏

○保育の社会化とは

子どもの存在そのものが『宝』として尊い。保育園が子どもの育ちや園生活を可視化や情報発信で地域・世の中に発信していくことが『保育の社会化』繋がっていく。

○地域の保育園としての取り組み ～連携と保護者支援～

①あかちゃん訪問

主任児童委員とともに地域で生まれた赤ちゃんを全戸訪問
園からの「産まれてきてくれてありがとう」のメッセージを伝えていきたい。

②保育園体験～おでかけひまわり@岡田保育園～

保育園ってどんなところか知ってもらう・昼食体験では食事をワンプレートで提供
園で大切にしていること、子どものありのままの姿が望ましい姿であることなど、子育てをがんばっている保護者に伝えるチャンスと捉えている。

③保小連携～交流から連携へ～

子どもの育ち、保護者の育ちを保育者・教師の相互理解と連携接続力の弱さを感じる。

○可視化と情報発信

- ・園だより、クラスだより、献立表、ドキュメンテーション・こどものつぶやきやエピソード記述など。
- ・子どもたちの育ちのプロセスが説明でき、自分の保育を語れるスキルを身につけ高めることが課題となる。

2. 感想

地域の中の保育園として、さまざまな取り組みをされていることを知ることができる良い機会となった。子どもにとっての幸せとは何かを考える中で、保護者の立場や視点に立つことで、新たな気づきがあったと感じた。また、子どものこと・保護者支援のこと・記録の残し方・発信の仕方を改めて振り返る機会となった。子どもや保護者にとって、安心できる場や人となり、保育や子ども理解をより深めていきたいと感じた。

(記録 みんなのき三室戸こども園 吉野 有紀)

